

<p>第二十三世 観世院 日音上人</p>	<p>本姓は木下氏静岡岡崎鷺津生れる。同県浜名郡太田の妙安寺で得度。知見院日諭上人に師事せり。</p>	<p>大正十年十二月大土肥妙高寺より入って法灯を嗣ぐ。</p>	<p>11年</p>	<p>昭和八年一月九日、病氣療養中遷化する。寿六十二歳。遺言により、大土肥妙高寺に葬る。</p>	<p>ポックリ寺)に転住。宗祖六百五十遠忌奉修後法灯を嗣ぐ、後病を得て豊橋市に轉地療養。</p>
<p>第二十四世 日昌上人</p>	<p>田口氏にして栃木県の生れ。権大僧正鈴木日雄上人の門に出づ。篤行気鋭にして春秋に富む。檀信徒の帰依頗る篤く、内外に教線を張り活躍は縦横であった。</p>		<p>50年</p>	<p>昭和六十三年七月五日遷化世寿八十八歳</p>	<p>千葉県妙典寺、宝蔵寺住職を経て、昭和八年法華寺に入寺、昭和五十八年退寺。昭和十三年盛岡市議会議員として、宗門人としては初めての快挙。権大僧正、一級法功章。弟子は長円寺佐藤光宣、法華寺田口信之、瑞然寺佐々木瑞英、実成寺故佐藤寿晃各師。</p>
<p>第二十五世 日観上人</p>	<p>第二十四世田口日昌人の弟子(長男にして名は信之)</p>			<p>現住職。</p>	<p>昭和六十三年位牌堂新築、平成三年鐘樓堂新築、同年日什大正師六百遠忌奉行。平成九年人権擁護委員となる。</p>

(一)

上行山開基日慶上人

千蔵院と号す(異本泉蔵院とあり)

日感大徳に師事したりと傳う。

其生系等

詳かならず。

想うに、上人は関東若くは奥州南部の産にして偶々常楽院日経上人天正十年奥羽布教の途に上り、折

伏逆化各地に轉教し数年の間会津本山妙法寺を董したり。是時経師の化導に浴しその會下に参したる一人ならんと思はる。具さに顛本の教旨と死身弘法の氣魄を受け、爰に廣布の師命を拜して单身北地に進みしが、時恰も盛岡の地は年とともに殷賑の度加わり、且つ南部藩治の居城に定まらんとする形勢にあるを察し好縁を得て錫を留めたり。

皇紀二千二百五十年天正十八年漸く一字建立の目的を達し、翌十九年純信の教徒を集め恭しく開山日什大正師の二百遠忌を虔修し、兼て開堂の供養に擬したり。

其山号を上行山と号し法華寺と稱するもの、上人の抱負雄大なるを知るに足るべし。慶長十六年十月二十八日寂す、其世寿法臘明らかならず。

二世日進上人 光立院と号す姓氏明かならず、寛永十六年三月二十九日寂す。

三世住善院日照上人 始め日性と稱す、本山歴代日性上人と同稱の故を以て宗派公表に際し、日乘上人より日照と改号を贈られたるものなり。世寿寂年明かならず。

第四世実成院日養上人 始め日要と稱す、本山歴代と同号の故を以て日乘上人より日養と改号を贈らる。

當山草創初期に於て基礎確立の為に大いに活躍し、寛永十七年檀徒数名を妙満寺に遣わし、日乘上人に状を具して允許を受け顛本法華の宗脈を公表し、後寛永二十年親しく上洛して貫主日要上人に謁し開教以来の顛末を陳したり、乗尊より當山中興の祖と稱讚せらる。其世寿入寂共に明かならず。

第五世久本院日生上人 寛文三年寺を現在の地に移転し大いに寺門の完成に力を致し能く今日の基礎を大成したり。重信公歌道のお相手として近侍し外護に浴す。延宝五年正月七日遷化す。世寿を明かにせず。

第六世宗元院日普上人 法を日生上人に享く。延宝五年三月入寺在職十二年に及び元禄元年六月隱退せり。上人は実に大力無双の偉丈夫にして七十九人力ありしと伝う。享保四年一月二十二日寂す、齡不詳。重信公息女・喜志子姫、当山に葬る。法号、貞了院殿妙恕 童祐大禪定尼。

董す||監督しおさめる  
會下||一人の師僧の下に集  
まて修行する所

殷賑||さかんに賑わいふる  
うさま

擬す||なぞらう

世寿||在世年寿  
法臘||僧が仏門に入ってから  
の年数

第七世曉了院日秀上人 天栄日生門下の俊傑なり、元禄元年六月瑞世せり。深く門弟の養成に志し幾多の英才を出せり、在職二十一年宝永五年七月隱退す。また梁間六間、桁行十間の客殿を造る。

第九世より第十二世に至る四代の山主は何れも上人の門下より出ず、享保二年二月七遷化す。

第八世策進院日衷上人 字は通眞と称す、第六世日普上人の門弟なり。宝永五年七月二十日入山し数日にして引退せり。其所以明かならず、享保九年三月寂す。

第九世唯性院日遯上人 日秀上人の高足なり、字は通天(異本慮天とあり)宝永五年七月二十四日法燈を紹ぐ、在職十年に及び享保二年二月十一日寂す。

第十世照性院日隣上人 字は在現、日秀上人の門下に出ず。享保二年四月入寺翌三年十一月十六日遷化す。

第十一世具性院日瑠上人 盛岡の産なり字は栄進と稱す。元禄十六年三月十歳にして日秀上人に就き得度せり、才幹博識殊に辯論に長ず。享保四年四月十一世の法燈を相続せり。藩内本宗寺院の觸頭ふれがしら役を命ぜらる。

享保十五年、城下の禅刹報恩寺一華和尚と四箇格言問題につき教学上の論議を闘わし凱歌を挙げたり。一華和尚為に達摩像の大軸と之が扶持料として畑地を贈り今に存せり。本山よりは教功を賞せられ、永代上人号並に紫の色衣に白菊浮紋袈裟免許の寺格に昇進せり。在職十四年享保十七年閏五月隱退し、元文三年十一月二十二日世寿四十五歳を以て遷化す。

第十二世明珠院日芳上人 字は盡教と稱す、羽州鹿角郡花輪町に生る。宝永元年六月七歳にして日秀上人の門に投ず。頗る俊傑なり、宮谷檀林に学び玄能職に進み、力を育英に注ぎ、後進の為に南部寮を創建し人材養成に努めたり。享保十八年六月(年齢四十一歳時)瑞世す、在職実に二十二年に及ぶ。

宝暦四年二月隱退し同六年五月十日寂す。寿五十九歳、本山歴代了解院日童上人、親了院日元上人は共に日芳上人の門下に出でたり、上人の学徳眞に欽仰すべきなり。

四箇格言しかのかくげん 念仏無間(念仏は無間地獄におちる)、禅天魔(禅は天魔の行為)

真言亡国(真言は国を亡ぼす)  
律国賊(律宗は国賊に相当)

の四句で日蓮が他宗を邪宗として責めた言葉である。

第十三世普性院日富上人 法を日瑠上人に享く字は純應、始め末庵本妙院に住し宝暦九年二月五日晋山す。安永四年二月二十三日五十五才を以て遷化せり。

第十四世敬信院日廣上人 字は寛禮日芳上人の門弟なり。安永四年六月看主職として就任し寺務を視ること六年に及び、天明元年八月名を日廣と改め宗命を以て第十四世の法燈を相続したり。寺院席次の調停に当たり功あり、文献に記あり。後病を得て觀了院日元上人に禪り文化七年四月四日寂す。寿七十二才。

第十五世觀了院日元上人 盛岡に生る字は素禪日芳門下の英傑なり。在職年及び生家詳かならず。後江都浅草慶印寺を督し、更に本山妙満寺貫主に進み百五十三世の法燈を紹ぐ。権少僧都に敍せらる、文政八年七月二十二日遷化す。世寿八十五歳なり。

第十六世信敬院日明上人 稗貫郡新堀村の産、字は義空日廣上人の門に出ず。文化七年三月二十一日晋山し、天保三年七月二十二日六十五歳を以て寂す。

第十七世清淨院日甫上人 字は章純と稱す。日廣上人の門下に出で後京師に上り、妙満寺に日元上人に師事せり。文政十一年十一月十五日法燈を相続し、文政十三年一月廿八日寂す。寿五十三歳。

第十八世觀明院日誠上人 字は素教、権少僧都日元上人の高弟にして宮谷檀林玄講百八十七世の師範たり。天保三年六月二日法燈を相続す。その高德を慕い来り師事するもの十八人の多きに達せり。小鷹御仕置場に丈余の供養塔を建立、安政二年七月二十八日八十五歳を以て遷化す。

第十九世妙解院日顛上人 字は智達権少僧都日誘上人に師事せり。学解篤く宮谷檀林玄講二百七十七世の師範たり。天保十三年十月一日晋山す。「拾文私擬」の著あり、明治二年九月十九日寂す。寿七十三歳。

第二十世眞如院日海上人 本名伊保内氏文政九年盛岡に生る。觀明院日誠上人に師事し行学篤厚なり。字は禪教明治元年七月七日晋山す。岩手県下派内教導取締申付られ、明治七年十月十四日教部省より権少講義を任ぜらる。在職実に三十有三年、明治二十四年本堂の再建寺門の整備化益県下に洽く、

京師||天子の東京都京は大  
師・大衆の集つてい  
るところ

顛||慎しみ深くおごそかな  
ことをいう、やすら  
かしく

新たに檀徒に加わるもの数十の多きに達せり。累進僧都に叙せらる。

明治三十三年七月職を法子日研師に禪ぜんり、奈須川以信院に隠退して悠悠老を養い、明治四十一年十二月二十五日八十三歳を以て遷化す。法臘ほうろう七十有六。

第二十一世就学院日研上人 盛岡細越氏に出で渡辺家を継ぐ、字は元教、当山二十世真如院日海上人の高足なり。明治三十三年七月二十六日品川眞了院より入りて法燈を嗣ぐ、在職実に二十二年。庫裡、倉庫等改築。宗命を体して別勸請べっかんじょうの撤廃を断行す。権僧都に叙せらる。大正十年四月二十五日は奈須川以信院に引退し自適の境にあり。昭和十六年十一月十二日世寿八十歳をもって以信院で遷化す。兄弟子は品川清光寺、岩泉妙法院伊藤内師。

第二十二世清凉院日暢にっちやう師 権大僧正鈴木日雄上人の高足、二十四世日昌上人の法兄、大正十年四月晋山し当寺にて示寂。同年十一月宗命に依り千葉県長生郡二宮郷村如意輪寺へ次いで鳥取法泉寺（通称ポックリ寺）へ転住。昭和四十年十月二十日世寿九十六歳。

第二十三世観世院日音上人 木下通応氏の出なり。静岡県鷲津の産同県浜名郡太田の妙安寺に於て得度し、知見院日諭上人に師事せり。大正十年十二月大土肥妙高寺より入りて法燈を嗣ぐ。昭和四年本堂客殿を瓦葺きにする。宗祖六百五十年遠忌奉修後、病を得て豊橋市に転地療養中昭和八年一月九日遂に遷化せり。寿六十二歳。遺言に依り大土肥妙高寺に葬る。

第二十四世常宣院公信日昌上人

栃木県田口家の産。東京小石川円常寺鈴木日雄上人に師事す。千葉県妙典寺、宗藏寺住職を経て法華寺に昭和八年入寺、昭和五十八年退寺。在職五十年、昭和六十三年七月五日遷化、世寿八十八歳。

昭和十三年盛岡市議会議員として宗門人としては初めの快挙。権大僧正、一級法功章。弟子は長門寺佐藤光宣、法華寺田口信之、瑞然寺佐々木瑞英、実成寺故佐藤寿晃各師。

昭和三十一年本堂再建、四十九年客殿新築、三十五年妙法院本堂再建、五十八年以信院本堂新築。

第二十五世普照院日観 第二十四世田口日昌人の弟子（長男にして名は信之）現住職。

法臘ほうろう|| 僧侶、得度後の年数

別勸請べっかんじょう|| 神仏の靈を別け迎えてまつること  
多くの神仏を勸請すること

昭和六十三年位牌堂新築、平成三年鐘楼堂新築、同年日什大正師六百遠忌奉行。平成九年人権擁護委員となる。